２　個別計画

個別計画では、全体計画で設定した空間区分計画及び動線計画を踏まえて、ハード面の整備計画を立てる。

遺構の保存・修復計画及び遺構の表現計画については、市民要望、現状の遺構の保存状況を踏まえ、各地区の将来像に沿って計画を立てる。**概ね 10 年以内に着手することが望ましい事項を「早期に整備を進める事項」、その他の事項を「今後検討すべき事項」**として整理する。

【整備の対象とする時期】

（第 4 章整備の基本的な考え方を再掲）

> 現状に見る浜松城の縄張、石垣等は、廃城時のものを示している。したがって、整備の対象とする時期は、廃城時の姿に照準を合わせることを基本にする。
>
> ただし、一定期間のみに存在していたと考えられる天守閣をはじめとして、局所的に遺構の変遷過程に重要な意義を有するものなどがあることから、統括的な視点の下に地区区分を行い、整備の対象とする時期とその整備手法に違いを持たせていく。

「廃城時の姿（廃城時に存在していた構造物）」を以下のように整理する。

廃城時に最も近い浜松城の絵図は、安政元年（1854）浜松城絵図である（次頁参照）。絵図の隅には「浜松　御普請方下書　安政元寅歳十一月四日辰刻己就地震　御城内外所々潰并破損所巨細書込　絵図方杉浦氏」とあり、この図から安政地震の被害状況がわかる。修理に 3 ヵ年ないし 5 ヵ年を要すると報告しているが、その後、構造物が再建されたかどうかは不明である。

徳川幕府崩壊に伴って、浜松城は廃城となり、明治 5 年（1872）8 月 23 日の浜松県令の布達で、建物等は払い下げられることになった。払い下げの対象となった物件の名称は右表に示したとおりであり、明治 5 年にこれらの構造物が存在していたことがわかる。

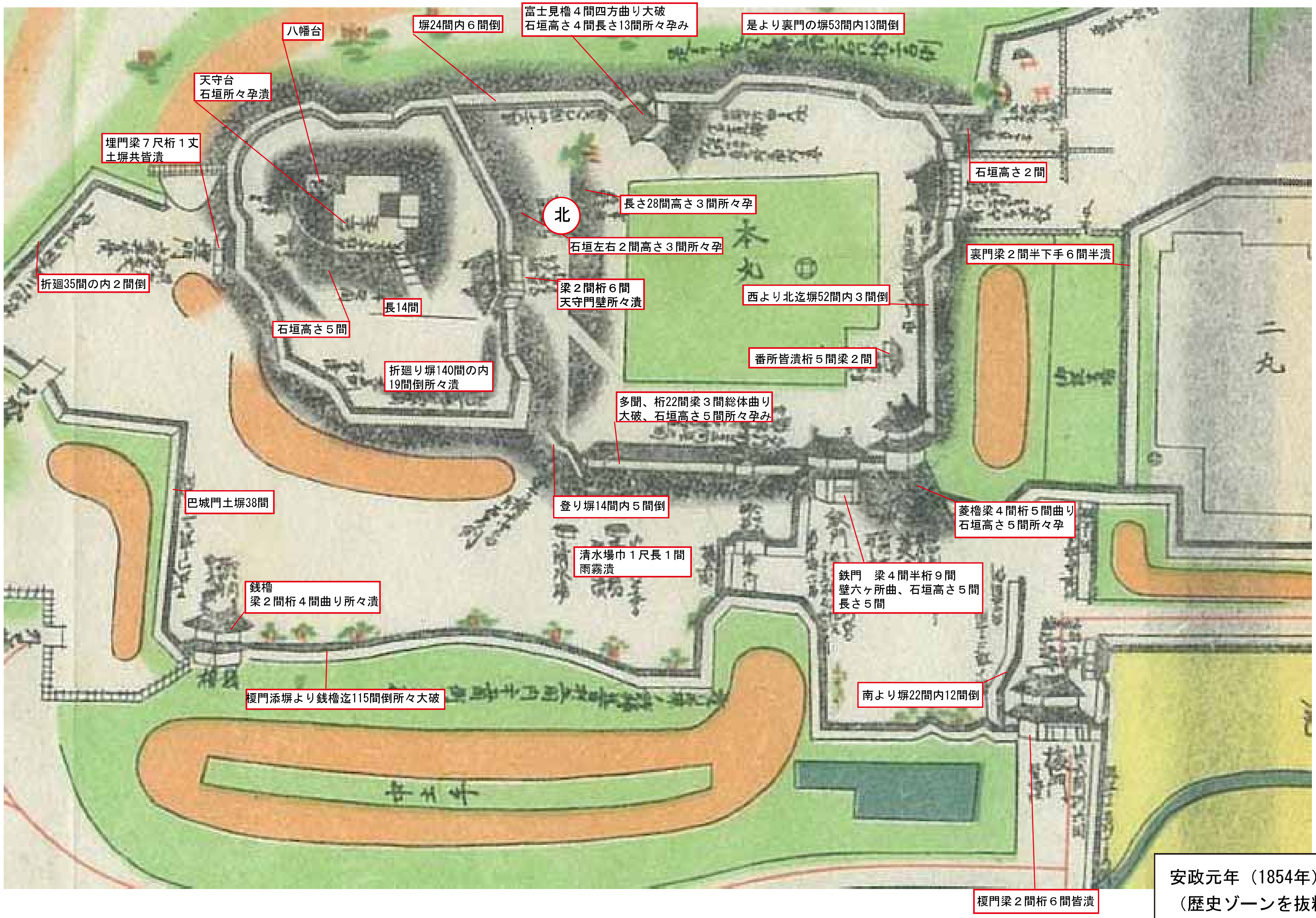
ただし、規模や構造が安政絵図に示されたものと同程度かどうかは不明であるため、現地での発掘調査による確認が必要である。

明治 5 年浜松城払下げ物件

古城二の丸建物	
1	大手御門　記録蔵
2	榎御門
3	二の丸御門
4	玄関広間
5	元書院時計間
6	元御用部屋廊下
7	元御居間より三の間
8	元台所
9	二の丸裏門
	元勘定所　土蔵
10	瓦門塀総体
	元本丸の分
その他	
1	鉄門
2	菱門
3	多門
4	天拝門（天守門）
5	富士見櫓
6	二俣門
7	埋門
8	清水門
	銭櫓
9	天守台　石垣　但築立之儘一坪ニ付
	鉄門下　石垣　同所
	多門下　石垣　同所
	河櫓台　石垣　同所
	計　19 か所
他ニ番頭櫓作左山有之候	
合薬蔵壱か所	

※　浜松市史２引用

※これらの中には、二俣門、河櫓台などの所在位置が判明していないものもあるので、下屋敷の構造物なども含まれていた可能性がある。



安政元年（1854年）浜松城絵図
（歴史ゾーンを抜粋し、訳文を加筆）

凡例
内文字主要部訳文

２－１　遺構の保存・修復計画

浜松城跡の本質的な価値は、残存する野面積の石垣と土塁、及び建造物の地上部が失われた後に地下に残存する遺構にある。ここでは、それらを確実に保存し、次世代へ継承していくための計画を立てる。

（１） 石垣について　【早期に整備を進める事項】

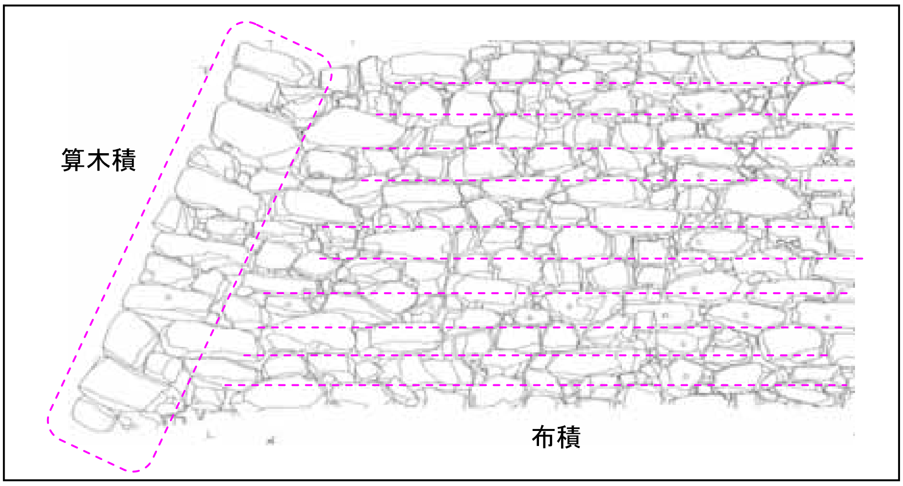
天守台・天守曲輪・本丸の一部には豊臣時代の古式な野面積の石垣が残り、これらは目に見える範囲で本質的価値を認識できる貴重な遺構である。特徴的な屏風折などの横矢や土塁上の鉢巻石垣などがみられる。しかし、長い年月と地震の影響により、石垣石自体の風化脆弱化、石垣基盤地面の地すべり崩壊、樹根による石垣の緩み孕みが生じている。

そこで、石垣の特色、現状と課題を整理し、石垣の保存・修復の考え方を述べる。

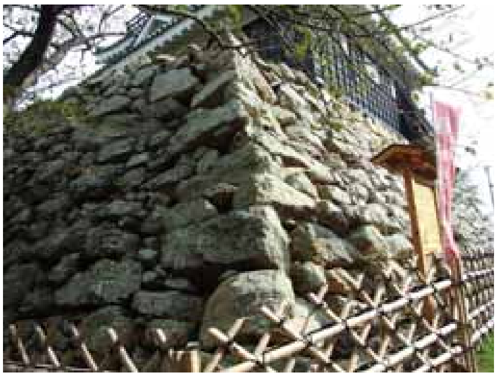
① 石垣の特色

ⅰ　石積技法

浜松城の石垣のうち、現存しているものは、天守台、天守曲輪周辺の石垣のみである。積み石は自然石を大割りにした粗面のままの野面である。積み方は布積と呼ばれるほぼ高さの揃った石材を一段ずつ横に並べ揃えたもので、横方向に目地が通っている積み方である。隅部は算木積という積み方が見られる。



天守台南面の石垣

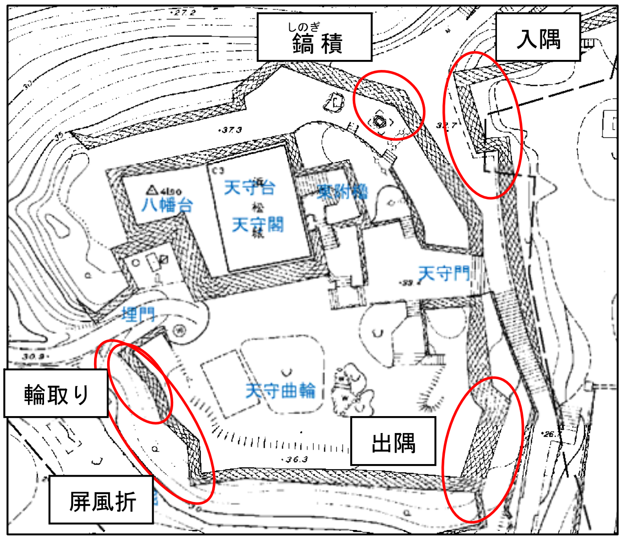


天守台南面の算木積

算木積は、長方形の石を石の長辺と短辺が一段ごとに互い違いになるように積まれている。

ⅱ　横矢

石垣が折れ曲がっているのは、敵に側面から攻撃を加えるための横矢を形成するためで、縄張の基本の 1 つである。塁線を一部分出っ張らせる出隅、逆に窪ませる入隅、出隅と入隅を交互に繰り返す屏風折、緩やかなカーブを描く輪取り、鈍角に積む鎬積が見られる。

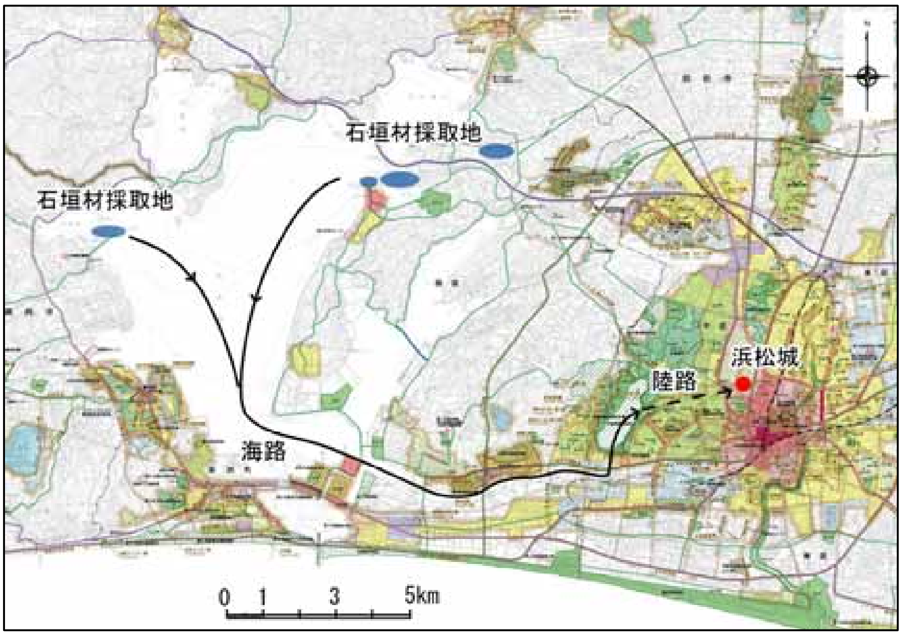


横矢の例

横矢	正面と側面など二方向以上から攻撃を加えるため、石垣や　土塁を折り曲げること。城の防御の最大の基本とされた。
出隅（ですみ）	隅部を外側に出っ張らせて横矢を掛けること
入隅（いりすみ）	隅部を内側に折り込んで横矢を掛けること
屏風折（びょうぶおり）	城壁を連続して折り曲げて城壁全体に横矢を掛けること
輪取り（わどり）	弧状の石の積み方
鎬積（しのぎ）	隅部を鈍角にする石の積み方

ⅲ　石垣材の採取場

浜松城の石垣石は、浜名湖北岸の舘山寺周辺の大草山や根本山及び湖西市知波田方面から主としてチャート（珪岩）を採取し、恐らく船で浜名湖を渡り佐鳴湖東岸まで運ばれ、そこから浜松城に運ばれたと推測されている。



主要な石垣材採取地と搬路の推測図

ⅳ　石垣の倒壊と積み直し記録

浜松城の石垣についての被災記録は非常に少ない。「浜松城石垣変状調査及び測量委託報告書　平成２年３月　浜松市教育委員会」によると、次の３つが挙げられる。

ア　安政元年浜松城絵図

イ　静岡県立浜松農工高等学校郷土研究班による浜松城測量図（昭和 35 年 10 月作成）

ウ　浜松市役所への聞き取りによる積み直し記録（平成２年１月）

以下、これらについて述べる。

ア　安政元年浜松城絵図

安政元年（1854）11 月４日と同２年（1855）９月 28 日の地震は相当の被害があった。普請方の調査（「遠江国浜松城地震二而損所之覚」（安政絵図の表題））によれば下表のとおりで、修理には三か年ないし五か年を要すると報告している。しかしそののちのことは明らかでない。

安政地震による被害状況

石垣所々孕
本丸菱櫓下
同所富士見櫓下
同所多聞下
同所鉄門脇
天守曲輪天守台
同所天守門外道之方
本丸より西の方
その他
櫓四か所　損大破または潰
多聞壱か所　大破
門拾か所　倒壊
囲塀数か所　倒壊

（出典：浜松市史２）

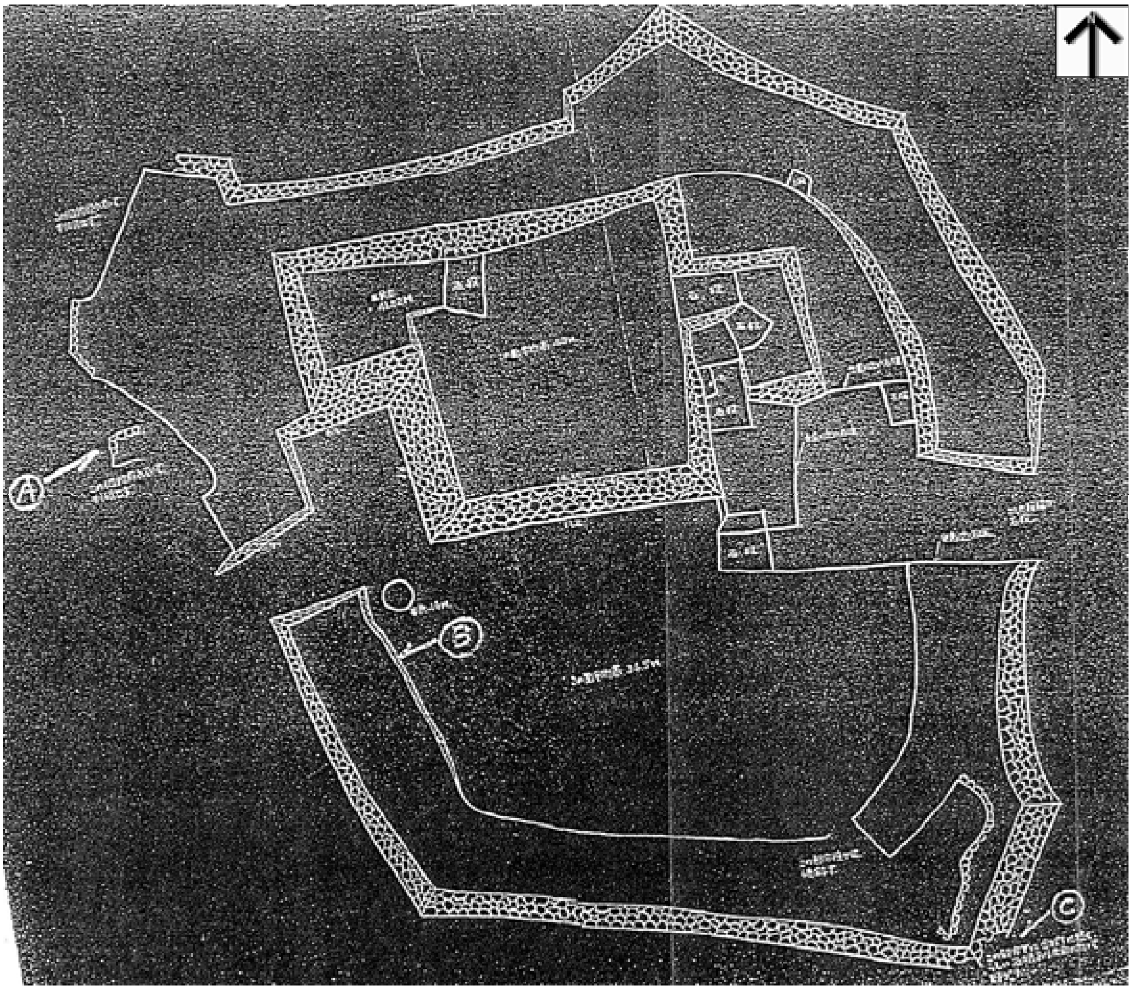
イ　静岡県立浜松農工高等学校郷土研究班による浜松城測量図（昭和 35 年作成）

この図と現在と相違する点としてⒶⒷⒸの３ヶ所がある。

Ⓐ　石垣はなくなっている。

Ⓑ　多くの部分が崩壊してなくなっている。

Ⓒ　測量図には石垣がないようになっているが、現在は石垣があるので、測量後に積み直しされたと思われる。



浜松城天守台測量図

出典：「浜松城石垣変状調査及び測量委託報告書　平成２年３月　浜松市教育委員会」

ウ　浜松市役所への聞き取りによる積み直し記録（平成２年１月）

「p50 石垣保存・修復の経緯」に示すとおり。

また、埋門北側に崩壊地がある。ここには第２次大戦中に掘削された防空壕があったと伝えられている。

出典：「浜松城石垣変状調査及び測量委託報告書　平成２年３月　浜松市教育委員会」